

平成23年度学童クラブ土曜日開所試行の検証について

～小学生の放課後施策推進協議会における検証～

平成 24 年 6 月

武蔵野市小学生の放課後施策推進協議会

1 事業概要

(1)対象となる児童

各クラブに入会した児童のうち、保護者の就労証明書などにより、土曜日において明らかに監護に欠ける児童（事前登録・予約制）

※保護者の就労以外の理由により土曜日において監護に欠ける場合も、状況に応じ受入れ可能とする

(2)運 営

開 所 日：4/7～3/30の毎週土曜日（12/29～1/3、国民の祝日を除く）

開所時間：午前9時から午後5時まで。事前に申し出があれば、午後6時まで開所。

実施場所：学童クラブ育成室及び地域子ども館あそべえ（教室・校庭・図書室）
（以下、「地域子ども館あそべえ」を「あそべえ」という。）

※拠点方式ではなく、全クラブで実施

実施方法：学童クラブ指導員があそべえ館長・スタッフと協力し、あそべえの各施設を活用して1日を過ごす。

（実施例）

9:00～ 9:30 育成室へ登所

9:30～10:30 学習

学習終了後、あそべえへ移動

10:30～16:00 あそべえ（教室・校庭・図書室）で過ごす

（12:00～ あそべえにて昼食）

16:00～16:30 育成室に戻った後、おやつ

16:30～17:00 読書、室内遊び

17:00～ 順次降所

※ 育成室とあそべえ施設との往来時刻については、当日の児童の登所時刻・学習の進捗・児童の体調・あそべえでのおやつ実施の有無等により、随時変更あり

(3)職員体制

1)職員配置

1箇所につき、学童クラブ指導員1名及びあそべえスタッフ

（教室・校庭・図書室。館長も含む。）

※障がい児が登所する場合など、育成上の必要性に応じて補助職員等を過配

2)補助職員配置

土曜日開所を利用する児童の状況が以下のいずれかに該当する場合には、補助職員を配置することとしている。

- ①「障がい児」として入会を承認された児童が土曜日に登所する場合
→障がい児 2 名につき臨時職員 1 名を配置する。ただし、当日登所する児童が当該障がい児 1 名のみの場合は配置しない。
- ②「配慮を要する児童」が土曜日に登所する場合
→配慮を要する児童 2 名につき臨時職員 1 名を配置する。ただし、当日登所する児童が当該児童 1 名のみの場合は配置しない。
※「配慮を要する児童」とは、障がい児等育成相談員に相談した実績のある児童とする。
- ③10 名以上の児童が土曜日に登所する場合
→当該日の前々日の時点で 10 名以上の登所が予定されたとき、臨時職員 1 名を配置する。
- ④学校行事等の実施により、あそべえが全日または午前中に臨時休館となったため、当該時間内に従事職員を補充すべき場合
→臨時職員 1 名を配置する。

Ⅱ 学童クラブ土曜日開所試行の状況

1 運営状況

- 平成 22 年 3 月以降、あそべえ企画運営会議及び現場スタッフとの協議あるいは校内移転により準備が整ったクラブ毎に募集が行われ、4 月中旬以降順次開所された（11 月初旬に校内移転し同月中旬より開所した本宿こどもクラブが最後）。
- いくつか運営上の課題はあるが、概ね順調に実施された。
- 土曜開所試行により、平日も含めた両施設の連携が推進された。
- 人員体制において、あそべえとの連携により効率的な運営が行われた。
- 土曜開所試行により、学童クラブ登録児童のあそべえ利用が促進された。

2 利用状況

(1)利用状況

平成23年度 学童クラブ土曜日試行開所の利用状況(4月9日～3月31日)

平成24年3月31日現在

こどもクラブ	学童入会児童数(人) (毎月1日平均)	学童土曜日利用				あそべえ来館			<参考>H22年度 学童在籍児あそべえ来館者数 平均(人)
		平均登録数 (人)	平均登録数/ 学童入会 児童数	平均登録出 席数(人)	平均登録出 席数/学童 入会児童数	平均総数 (人)	平均土曜日 利用非登録 学童児童数 (人)	平均学童在 籍総数(人)	
一小	42	2.0	4.8%	1.0	2.4%	21.4	0.5	1.5	4.3
二小	42	8.5	20.2%	3.5	8.3%	13.4	1.9	5.4	2.1
三小	61	13.8	22.6%	5.2	8.5%	34.7	3.4	8.6	6.0
四小	54	12.4	23.0%	3.5	6.5%	30.7	3.4	6.9	4.4
五小	34	6.8	20.0%	2.2	6.5%	24.7	2.4	4.6	6.5
大野田	67	10.6	15.8%	3.9	5.8%	34.3	3.8	7.7	6.5
境南	77	10.4	13.5%	3.1	4.0%	17.3	2.9	6.0	3.5
本宿	28	1.8	6.4%	0.7	2.5%	18.2	2.8	3.5	1.4
千川	34	4.2	12.4%	1.2	3.5%	14.4	0.8	2.0	2.1
井之頭	48	6.1	12.7%	1.2	2.6%	21.5	3.1	4.3	4.4
関前南	25	4.1	16.4%	2.3	9.2%	22.1	1.6	3.9	4.6
桜野	67	14.9	22.2%	8.0	11.9%	26.5	1.3	9.3	4.3
平均	48.3	8.0	16.5%	3.0	6.0%	23.3	2.3	5.3	4.2
合計	579	95.6	16.5%	35.8	6.2%	279.2	27.9	63.7	50.1

<あそべえにおける学童児童の利用者数>

	平成 22 年度	平成 23 年度（1 月分まで）
延べ利用者数	10,978	13,014

(2)利用状況について

- 平日に比較して利用者数は少なく、平均利用者が2名以内のクラブがある。(一小、本宿、千川、井之頭クラブ) *本宿は11月からの開所。
- 一部クラブにおいて、半日以下の一時的な短時間利用がなされている事例がある。
- 平成23年度の土曜日利用登録者数(平均)は95.6人、平成24年4月1日現在における土曜申請数は122人である。年度当初の利用者数は増加しており、平成24年度における利用者数の増加についても見込まれる。

- 平成 23 年度は平成 22 年度と比較して、学童児童のあそべえ利用数が増加した。
- 平成 24 年度は、入会申請と併せて土曜開所試行の全クラブでの実施を周知しているため、平成 23 年度と比較し利用予定者数が増加している。

3 アンケート

(1) 現場職員(指導員・館長・教室スタッフ)

1)アンケート

＜学童クラブ土曜日試行開所実施に関する現場職員アンケート 集計結果＞

対 象:あそべえ館長及び教室スタッフ計 60 名・学童クラブ指導員 31 名

実施期間:H23.8.9～H23.8.25

◎・・・両施設ともに回答数が多かった項目(回答率 20%以上)

○・・・片方の施設でのみ回答数が多かった項目(回答率 20%以上)

Aあそべえと学童クラブの連携による土曜日開所試行実施に伴う変化・成果(複数回答)

	選択項目		回答率(%)	
			あそべえ	学童クラブ
○	①	遊びの種類・幅がひろがった。	11.7	<u>29.0</u>
	②	両施設の児童が一緒に遊べるようになり、友達の幅がひろがった。	18.3	12.9
◎	③	あそべえ館長・スタッフや学童クラブ指導員がより多くの子どもと接するようになった。	<u>20.0</u>	<u>29.0</u>
○	④	見守りの目が増え、安全管理の負担が分担できた。	<u>23.3</u>	6.5
◎	⑤	両施設の職員相互の日頃のコミュニケーションの機会が増え、円滑になった。	<u>65.0</u>	<u>58.1</u>
◎	⑥	対象児童に関することなど必要な情報の共有が促進された。	<u>40.0</u>	<u>38.7</u>
	⑦	変化・成果はない。	8.3	16.1
	⑧	その他	8.3	9.7

Bあそべえと学童クラブの連携による土曜日開所において、適当な学童クラブ利用児童数

	選択項目		回答率(%)	
			あそべえ	学童クラブ
	①	1人	0.0	3.2
◎	②	2～3人	<u>21.7</u>	<u>22.6</u>
◎	③	4～9人	<u>58.3</u>	<u>48.4</u>
	④	10人以上	16.7	12.9
		その他回答	1.7	0.0

C 現行の土曜日開所において改善すべき点・課題(複数回答)

	選択項目	回答率(%)	
		あそべえ	学童クラブ
○	①	両施設の職員相互の日常的なコミュニケーション	<u>40.0</u> 12.9
◎	②	あそべえスタッフ及び学童クラブ指導員それぞれの役割意識等に関する相互理解	<u>51.7</u> <u>32.3</u>
◎	③	配慮を要する児童への接し方に関する共通理解	<u>46.7</u> <u>29.0</u>
○	④	職員配置	18.3 <u>48.4</u>
	⑤	学童クラブ室の利用ルール	11.7 12.9
◎	⑥	緊急時(事故・災害等)の対応方法	<u>66.7</u> <u>38.7</u>
○	⑦	あそべえ利用に対する学童クラブ在籍児童の保護者の理解	<u>41.7</u> 6.5
	⑧	その他	6.7 19.4

2) アンケート結果について

＜あそべえと学童クラブの連携による土曜日開所試行実施に伴う変化・成果＞

- 両施設の職員の回答において、両施設の職員のコミュニケーションが促進され、児童等に関する情報共有が促進された。
- 学童クラブ指導員の回答において、遊びの種類が広がったとの評価がなされた。
- あそべえ館長及び教室スタッフの回答において、見守りの目が増え、安全管理の負担が分担できたとの評価がなされた。

＜あそべえと学童クラブの連携による土曜日開所において、適当な学童クラブ利用児童数児童数＞

- 適当な児童数としては、4～9人が最も回答が多く、2～3人がそれに続いた。

＜現行の土曜日開所において改善すべき点・課題＞

- 両施設の職員の回答において、緊急時の対応方法や役割意識等に関する相互理解、配慮を要する児童への接し方についての共通理解に課題を見出している。
- 学童クラブ指導員の回答では、職員配置についての課題認識がある。
- あそべえ館長及び教室スタッフの回答において、上記の＜変化・成果＞では肯定的な評価として挙げられた両施設職員のコミュニケーションについて、改善すべき点・課題としても挙げられている。また、あそべえ利用に対する学童クラブ在籍児童の理解についても改善すべき点・課題として挙げられている。

<総括>

- 両施設職員においても、あそべえと学童クラブの連携による土曜日開所の試行より、小学生を対象とする両施設のコミュニケーションや必要な情報共有の促進について、肯定的な評価がなされた。
- 一方、利用者、学童クラブ指導員からは、職員配置に関することが改善すべき点・課題として挙げられている。
- あそべえスタッフには土曜開所により、従来の「遊び場」機能に加え、土曜日の学童クラブ事業への支援あるいは補助の機能が加わった事を周知する必要がある。

(2) 児童

1)聞き取り調査

<学童クラブ土曜日試行開所に関する利用児童への聞き取り調査結果>

対 象：学童クラブ土曜日試行開所利用児童（有効回答数 75 名）

調査期間：平成 23 年 9 月 6 日～平成 23 年 9 月 9 日実施

回答	数	理由
土曜日の学童クラブが楽しい	47	<人数が少ない> ・ゆったり過ごせる、自由に過ごせる ・好きな遊びをじっくりできる ・場所を広く使える ・大人に甘えられる ・けんかが起きにくく、仲良く遊べる ・静かで集中できる
		<平日と異なる> ・あそべえでいつもと違う遊びができる ・図書室に行ける、読書がゆっくりできる ・いつもと違うおもちゃが使える ・自宅から好きなおやつを持参できる
		<友達に会える> ・好きな友達とたくさん遊べる ・いつもと同じように遊べる
土曜日の学童クラブがつまらない	11	<さびしい> ・同学年、同性の友達が少ない ・帰りの前の時間はひとりになってしまう ・いつも遊んでいる相手が来ない
		<好きなことができない> ・育成室にずっといたい ・学習の時間が嫌だ
学童クラブに来る以外で土曜日をどう過ごしたいか		<家族・友達と過ごす> ・自宅で遊びたい、自宅でのんびりしたい ・保護者と一緒にいたい ・友達の家に行きたい ・親戚の家に行きたい ・兄弟姉妹と遊びたい

	<自由に過ごす> ・友達といっぱい遊びたい ・公園やあそびえに行きたい
	<習い事> ・習い事に行きたい ・サッカーをしたい ・野球の練習をしたい

*「どちらでもない」と回答した児童は17名、楽しい理由とつまらない理由が混在している。

2) 聞き取り調査について

- 小学生低学年を対象とする調査であるため、アンケート調査ではなく、指導員からの聞き取り調査とした。
- 6割以上の児童が土曜日の学童クラブを楽しんでいる。その理由としては、人数が少ないこと（自由に過ごせることや、大人に甘えられること等）や平日と異なる育成内容（あそべえで違う遊び場できることや、いつもと違うおもちゃが使えること等）を挙げている。
- つまらない理由としては、寂しいこと（友達が少ない）や好きなことができないこと（育成室にいたいことや学習の時間がいやなこと）を挙げている。
- 学童クラブに来る以外どのように土曜日を過ごしたいかとの質問には、家族・友達で過ごしたい、自由に過ごしたいとの回答が多かった。
- 「自由来所」を旨とするあそべえの主旨からも、「育成室にいたい」という児童への配慮は必要と思われる。

4 職員体制

1) 職員体制

- 学童クラブ指導員1名とあそべえスタッフ（教室・校庭・図書室。館長も含む。）が連携することで、連携の促進・情報の共有及び効率的な事業運営がなされた。
- 週五日勤務に対応した人員体制で週六日の勤務を行っているため、職員の病欠等への対応が柔軟に行えない。
- 学童クラブ指導員の勤務においては、土曜出勤分を平日の振替休日で対応した。そのため、指導員相互の出勤日にズレが生じるとともに、利用児童が多い平日に指導員の欠員分をアルバイトで代替することとなり、平日に勤務する指導員の負担が相対的に増加した。
- 協議会において、職員のシフト勤務により育成の連続性が損なわれていないか、懸念が示された。
- 土曜日の利用児童が少ない場合、急な利用予定者のキャンセルあるいは、利用時間の変更にクラブ開設時間が左右され、指導員の勤務時間が流動的になる。

2) 補助職員

<補助職員配置の実際>

配置対象クラブ名	配 置 日 数									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
三小こどもクラブ	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
桜野こどもクラブ	4	3	3	5	4	4	5	4	3	4
大野田こどもクラブ		0	0	2	1	2	1	2	3	2
境南こどもクラブ			0	0	1	0	1	0	0	0
二小こどもクラブ			0	0	0	0	0	1	0	1
四小こどもクラブ	3	4	4	5	2	4	5	4	4	4
井之頭こどもクラブ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

Ⅲ 学童クラブ土曜開所試行における課題について

1 運営における効率性の視点

[利用者数]

- 平日に比較して利用者数は少ない。試行初年度であり、かつ年度途中からの開所のため、特に利用者が少ないクラブがあるが、今後の推移を見守る必要がある。

[利用形態]

- 利用にあたって、利用児童の利用時間が半日以下の一時的な短時間利用がなされている事例がある。

2 利用者の視点

- 土曜日開所は土曜就業の世帯から大変歓迎されている。
- 臨時勤務の際には利用できないなど、事前登録制について、保護者から柔軟な対応を求められている。
- 土曜日開所に伴う指導員の平日の体制について、保護者から児童の育成の連続性の観点から懸念が出ている。

3 学童クラブの職員体制についての視点

- 週五日勤務に対応した指導員の人員体制で週六日の勤務を行っているため、指導員の病欠等への対応が柔軟に行えない。
- 指導員の土曜日出勤分を振替休日に対応しており、利用児童が多い平日の職員体制において、指導員の欠員分をアルバイトで代替している。そのため、指導員相互の出勤日にズレが生じるとともに、利用児童の多い平日に勤務する指導員の負担が相対的に増加した。
- 土曜日の利用児童が少ない場合、急な利用児童予定者のキャンセルあるいは、利用時間の変更によりクラブ開設時間が左右され、指導員の勤務時間が流動的になる。
- 職員体制のあり方について検討が必要である。

4 あそべえの目的・機能についての視点

[保護者及びあそべえスタッフの理解]

- あそべえと連携した学童クラブの土曜日開所に対する学童クラブ在籍児童の保護者の理解が充分ではない。また、あそべえスタッフが、業務として土曜日の学童クラブ事業への支援あるいは補助を行うことについての理解が十分ではなく、一層の周知が必要である。

[あそべえの目的・機能についての視点]

- 今後の課題として、あそべえにある程度の児童預かり機能（来館・帰宅時刻等の管理等）の付与及びその周知について、検討する必要がある。

5 学童クラブの土曜日開所のあり方

- 今後の課題として、土曜日の学童クラブの開所を平日の延長として実施するのか、それとは違った営みとして実施するのか、検討する必要がある。

IV 平成 24 年度の試行実施にあたって

1 実施体制

平成 23 年度と概ね同様の体制で運営。職員体制についても引き続き検討を行う。

2 バージョンアップ例

- ① 児童館事業の出張実施等、活動メニューの充実化
 - a. 児童館事業の出張実施
 - b. 特に要配慮児童の土曜日利用が多いクラブ・あそべえへ児童館職員を派遣
- ② 利用日の予約期限の柔軟化
- ③ 補助職員を過配する際に、可能な限り同一職員を配置
- ④ 臨時勤務など、事前登録が無い児童でも土曜日に監護に欠ける際は利用の門戸を開く
- ⑤ 土曜日を保護者・地域との交流行事の日として活用
- ⑥ 小規模クラブの土曜日勤務による振替休日が平日の育成に与える影響を軽減するため、指導員の固定的なローテーションによる土曜日勤務の実施

平成23年度学童クラブ土曜日開所試行の検証について
～小学生の放課後施策推進協議会における検証～

平成 24 年 6 月

編集・発行／武蔵野市子ども家庭部児童青少年課

〒180-8777 武蔵野市緑町 2-2-28

電話 0422-60-1853